

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・環境 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP3108
2. 授業担当教員	新田 恵美		
4. 授業形態	講義 実習 演習 実験	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	介護家政・環境論における衣生活・住生活の実習 演習 実験を中心とした学び		
7. 講義概要	<p>介護を要する人たちが尊厳を持って、日々その人らしく暮らしていけるよう支援するための考え方や技法の習得をめざしている。そこで本講義では、介護の現場において生活支援技術とともに、人間の欲求や人間生活の仕組みを理解し、すべての人が文化的で人間らしい生活を営むことができるよう支援できる力が必要となる。生活支援演習・実習を通して具体的に学びを深め、介護現場で役立つ実践力を養うことを目的とする。</p> <p>住生活では、建物の段差の計測や家事作業計画・介護作業計画・室内環境の整備・清掃技術・住居管理・防災の実習、さらに、老人・障害者に適した住居改善の事例を紹介しあい、支援のための演習・実習を行う。</p> <p>衣生活面においては、具体的な衣服の繕い・整理・保管・素材の鑑別実験・洗濯・染み抜き・漂白・しあげ等の実習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家事支援における介護技術を身につけ、実践することができる。</li> <li>2. 要介護者の衣生活に適切に援助するための知識と技能を身につけ、実践することができる。</li> <li>3. 要介護者の居住環境に対し適切な生活支援ができる知識と技能を身につけ、実践することができる。</li> </ol>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作作品(手縫いの基礎縫い・ボタン付け)の提出。</li> <li>・実習(衣服・着物のたたみ方・アイロンがけ・洗濯)の技能と記録の提出。</li> <li>・要介護者の住環境のアセスメントの分析から住宅改修のプラン立案の提出。</li> </ul>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (第 2 版)』中央法規, 2022 年。</p> <p>【参考書】 田崎裕美・中川英子『生活支援のための調理実習(第 2 版)』建帛社</p> <p>【教材】 毎時授業ごとにレジュメを配布します。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事支援における介護技術を身につけ、実践することができるか。</li> <li>・要介護者の衣生活に適切に援助するための知識と技術を身につけ、実践することができるか。</li> <li>・要介護者の居住環境に対し適切な生活支援ができる知識と技術を身につけ、実践することができるか。</li> </ul> <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極性 30%</li> <li>・演習・実験のレポート 40%</li> <li>・提出物作品(ミント・小物) 30%</li> </ul>		
12. 受講生へのメッセージ	この教科書は私たちが生きていくために行われる家事活動全般を対象としています。ですから授業は演習、実習、実験といろいろな学習形態の活動を通して思考、考察し、専門性をもった技能を身につけて欲しいと願って授業を組み立てていきます。より質の高い介護支援技能を身につけた人間性、自己研鑽に励むことを望みます。		
13. オフィスアワー	火曜日		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション シラバスの説明(学習の内容、作品製作日程や提出日の確認、材料の準備について)	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。
第 2 回	生活支援の視点(いろいろな生き方、暮らし方) ・イラストから受け取る家庭生活を想像しているいろいろな生き方、暮らし方があることを理解する。	事前学習	事前に配布されたイラスト資料の理解をして授業に臨む。
		事後学習	授業のディスカッションを基に感じたことや考察したことを自分の言葉でまとめる。
第 3 回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎 (1) ・ボタン付け、スナップ付け	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。
		事後学習	ボタン付け、スナップ付け、など技能の基礎を体験し、日常生活の中で習熟を図る。
第 4 回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎 (2) ・並み縫い、まつりぬい ・布巾づくり	事前学習	裁縫道具の名称を理解したうえで、内容を確認し準備する。
		事後学習	製作した布巾を仕上げる。時間内に仕上がらない場合は自己学習で仕上げ提出する。
第 5 回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎 (3) ・小物制作	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。
		事後学習	小物製作実習を振り返り、工夫したところや日常生活における活用について考察し、作品とともに提出する。
第 6 回	被服管理に関する実験 2 (繊維の特性、しみ抜き、布の性質、アイロンがけ) 取	事前学習	タグが付いている衣服を準備して授業に臨むこと。

	取り扱い表示		アイロンがけ練習用に適切な素材の衣服を用意する。
		事後学習	取り扱い表示を確認しながら洗濯・アイロンがけの実習を行い記録と感想を文章化し提出。
第7回	被服管理に関する実験1 (着物の名称、着物のたたみ方、生活の中の整理整頓)	事前学習	着物・シャツのたたみ方教①P240、P238を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中で衣服・着物のたたみ方についての技能の習熟を図り、実習した感想を提出する。
第8回	高齢者の被服 ・サイズの測り方、体型にあわせた衣服のデザインの直し方を学ぶ。	事前学習	事前配布資料に目を通し、メジャーを準備しておく。
		事後学習	型紙を使った被服の合わせ方を理解する。
第9回	衣生活における生活支援の知識の確認 衣生活に関する実習の振り返り介護実践での有効性 (衣生活単元テスト)	事前学習	第3回～第8回の内容衣生活にかかわることを振り返って授業に臨むこと。
		事後学習	衣生活における学習内容確認する。
第10回	・生活を支える様々な用具 ・暮らしやすい生活環境 生活環境アセスメント①	事前学習	教科書 pp. 196～217 を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	福祉用具の意義を振り返り今回の学習と合わせて学習効果とする。
第11回	生活環境アセスメント② ・住生活に関する空間環境、快適な住まい	事前学習	事前配布資料を熟読すること。 教科書 pp. 38～80 を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	レジュメと個人ワークを照らし合わせる。
第12回	生活環境アセスメント③ ・安全・安心快適な住まい ・住居の維持のための基本技術	事前学習	事前配布資料を熟読すること。
		事後学習	レジュメと個人ワークを照らし合わせ修正すること。教科書 pp. 38～80 参照。
第13回	生活環境アセスメント④ ・住居の改造・改築 ・住宅改修のプレゼンテーション	事前学習	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
		事後学習	生活環境アセスメントの考察をまとめておくこと。
第14回	・バリアフリーとユニバーサルデザイン	事前学習	事前配布資料「バリアフリーとユニバーサルデザイン」に目を通して授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中から共用品の活用を認識する。演習課題を復習する。住環境の単元を総復習すること。
第15回	安心できる住生活とまちづくり ・ライフスタイルの多様化と住まい ・安心して暮らせるまちづくり (住環境単元テスト)	事前学習	教科書 pp. 280～305 を読んでから授業に臨むこと。住環境の単元を総復習しテスト対策をすること。
		事後学習	生活支援のための環境整備を単元ごとに考察する。